



第 16 号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ



「生涯学習の意義」

園田学園女子大学

学長 川島 明子

本学は、開学以来、建学の精神「捨我精進」に基づき、「経験値教育により他者と支え合う人間の育成」を目指しています。その間、35年以上の「生涯学習の拠点」の歴史を誇り「地域と共に歩む大学」として、地域に開かれた大学づくりを推進してきました。

総合生涯学習センターに2002年に開設されたシニア専修コースは、全国的にも数少ない取り組みであり、それぞれの場で社会に貢献された方々が、「ライフ・スタディ・バランスを図る視点で学び、生涯輝き続ける」をまさに実践しているコースです。

シニア専修コースの皆様は、既に半世紀以上の人生経験を積んでおられ、これまでの生活を通じて、豊かな経験を積み、自分が関わってきた事柄については、ご自分なりの知識と考えを有しておられます。このコースの重要な役割は、積み重ねて来られた知識と経験とを、これまでとは異なる視点から再びとらえていただくこと、すなわち学び直しと学びの継続にあります。そしてその成果を、地域社会に還元し、皆様の健康でアクティブな生活の実現に役立てていただきたいと願っています。

2011年の東日本大震災後、国内外ではまだまだ様々な問題が山積していますが、さらに昨年4月、熊本県を中心にした大地震が発生しました。日本人は、絶えず身震いする巨人の上で暮らしているようなものだといわれていますが、この現実味が否応なしに近年増してきています。

これからの予測できない困難な事態の解決には、豊富な職業生活を含めた人生経験を持ったシニア世代と現役世代の持つ知恵と体力が協働し、根気強く助け合うネットワークの堅持が必要であると考えています。

今後、本学の学びが、皆様の社会で協働して活躍する力を増し、幸福で豊かな人生を送られるための一助となるよう講座の充実、発展に努力してまいりたいと思っております。

最後に、健康に留意され、学び、輝き続けるシニアの力をアクティブに息の長いスパーンで継続されることを、心より祈念しております。

目 次

表紙 「生涯学習の意義」	川島 明子学長	P 1
先生方からのメッセージ	講師の方々	P 3
平成 28 年度シニア専修コース卒業式	「けやき便り」編集クラブ	P 9
平成 28 年度卒業生からのメッセージ	文歴卒業生 有志	P10
園田シニアの3年間を振り返って	研究生 永井ツネヨ	P11
平成 29 年度シニア専修コース入学式	「けやき便り」編集クラブ	P12
平成 29 年度新入生誌上座談会	「けやき便り」編集クラブ	P13
みんなの尼崎大学はじまるの会！	「けやき便り」編集クラブ	P15
シニア専修生が講師として発信	「けやき便り」編集クラブ	P17
シニア専修コース 新年交流会	「けやき便り」編集クラブ	P18
第2回 情報学科同窓会の開催	研究生 佐治登志子	P20
文歴 12 期生の懇親会（新年会）	研究生 大芝利文、青木利明	P21
国際 10 期生（十色会）の親睦会	研究生 阪田 正樹	P22
文学歴史学科新入生歓迎会	文歴 2年 宮岡憲次郎	P23
平成 29 年度「情報学科新入生歓迎会」開催！！	「けやき便り」編集クラブ	P24
国立文楽劇場【4月公演】観劇記	情報 3年 岡田 真人	P25
記憶の中で今もきらめく本、今、心に響く本	研究生 村松 広子	P26
おばあちゃんのひな祭り	国際 3年 岡田久美子	P28
文学歴史学科 9 期生 同期会	研究生 木下 俊造	P30
読者の広場	「けやき便り」編集クラブ	P30
総合生涯学習センターからのお知らせ	総合生涯学習センター	P31
投稿依頼、編集後記	「けやき便り」編集クラブ	P32

シニア専修コースでご指導を頂く先生方からのメッセージ

なお、敬称は省略、順序はあいうえお順で掲載させて頂いています。

1 段目	お名前	2 段目	お写真	3 段目	役職名
4 段目	ご担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科、国際文化学科

生駒 孝臣	影山 尚之	河合 利光
		
関西学院大学非常勤講師 大阪市史料調査会調査員	本学名誉教授	本学名誉教授 大阪大学非常勤講師
日本史学 (3)	日本文学 (1)	国際総合研究、国際文化研究
授業では「難しいことはわかりやすく わかりやすいことは面白く 面白いことは深く」をモットーに、日本の中世という時代の奥深さを受講生のみなさんに味わっていただけたらと思います。	私の話は、巧くゆくときと大失敗のときと、いろいろですが、それは別にして、シニアのみなさまには大学での生活をお楽しみいただきたいと願います。青春時代再来ですね。	本年度も、講義のほか、授業の一環として世界の文化を体験的に学べる機会がもてるよう努めます。
木場 貴俊	桐藤 薫	金 セツピョル
		
本学非常勤講師	本学非常勤講師	国立民族学博物館外来研究員
日本史学 (1)	東洋史概説、東洋史特論	文化人類学入門 (後期)
日本史学(1)を担当している木場です。授業を受講される皆さんのやる気に刺激をもらっています。今年も一年間よろしくお願います。	P 6に記載しています。	宗教と儀礼を中心に文化人類学を学びましょう。身近なところから遠いところまで、相対的に世界をみる楽しさを分かち合いたいと思います。

文学歴史学科、国際文化学科

久下 隆史	窪田 暁 (さとる)	桑原 一歌 (もとか)
		
<p>本学非常勤講師</p>	<p>奈良県立大学専任講師</p>	<p>本学非常勤講師</p>
<p>日本史学(2)</p>	<p>文化人類学入門 (前期)</p>	<p>日本文学 (2) 日本古典文学研究</p>
<p>幾つになっても新しいことを知るの楽しいものです。ことに好きなことなら、楽しみは何倍にもなります。この1年、私も皆さんとともに学びを深め、楽しい講義になるように努めますのでよろしくをお願いします。</p>	<p>専修コースでの偶然の出会いを大切に、「一期一会」を満喫しましょう！</p>	<p>「日本文学 (2)」では『源氏物語』第一部の中盤を講読します。また、「日本古典文学研究」では『枕草子』を通して日本の歴史や文化に触れます。どうぞよろしくをお願いします。</p>
谷川 泰教	玉城 毅	中村 直人
		
<p>高野山大学名誉教授</p>	<p>奈良県立大学准教授</p>	<p>関西学院大学非常勤講師</p>
<p>仏典を読む</p>	<p>アジア太平洋文化論 (前期)</p>	<p>戦国大名とその時代</p>
<p>書店では一般向けの仏教書やブツダに関する本を多く見かけますが、できるならブツダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと願っています。</p>	<p>世界と自己に対して心を開き、常に新鮮に向き合う、そのような学問を実践したいと考えています。</p>	<p>日本中世史 (寺院史) を専門としています。授業では戦国大名について扱います。歴史小説ではなく歴史学では、戦国大名をどのように捉えているのか。私自身考えながら、皆さんに提示することができたら幸甚です。</p>

文学歴史学科、国際文化学科

本城 二郎	松本 和明	松山 利夫
		
<p>関西チェコ／スロバキア協会理事 関西大学外国部学部 非常勤講師 (SA 地域文化入門)</p>	<p>西宮神社文化研究所 主任研究員</p>	<p>平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授</p>
<p>ヨーロッパ地域文化 I、II</p>	<p>江戸時代の政治・社会</p>	<p>多文化共生論、日本の風土と文化、国際観光開発論</p>
<p>P 6に記載しています。</p>	<p>P 8に記載しています。</p>	<p>仲間をふやしましょう！ 知的な雰囲気を楽しみましょう。</p>
宮城 洋一郎	山口 悟	吉村 稔 (しげる)
		
<p>種智院大学特任教授</p>	<p>大阪学院大学教授</p>	<p>本学名誉教授</p>
<p>仏教の歴史と思想 (後期)</p>	<p>国際地域文化 西洋史概論</p>	<p>日本文学 (3) 日本近現代文学研究 I 日本近現代文学研究 II</p>
<p>仏教の教義は難解ですが、歴史というフィールドの中で捉え返すと、見えにくいところが浮き彫りになってきます。この講義では、日本仏教の祖師たちを中心に、社会的実践のあゆみに焦点を当てながら、進めていきます。</p>	<p>歴史を楽しみましょう。</p>	<p>人生を切り取る「文学」 『そのだシニ専』で「文学」に触れ、眉根にしわを寄せ、涙腺をゆるめ、そしてうなずく刻を楽しんで下さい。</p>

文学歴史学科、国際文化学科

吉本 康子



日本学術振興会特別研究員
(上智大学研究員)

アジア太平洋文化論 (後期)

授業では東南アジア、主にベトナムの事例を取り上げながら、どのような人々が、どこで、どのように暮らしているのかについて紹介し、異なる文化的背景を持つ人々の共存について、日本の事例と比較しながら考えたいと思います。

【桐藤 薫先生メッセージ】

中国は謎に満ちた国ですが、共に学びを進めながら、数々の「？」が「！」に変われることを願っています。論語を4年かけて通読する東洋史特論は今年で3年目です。拙い授業をいつも熱心に聴いてくださる受講生の皆様に、心から感謝申し上げます。

【本城 二郎先生メッセージ】

私は縁あって、チェコに7年、スロバキアに2年留学し、現在、中東欧とケルト圏を中心に欧州言語文化研究を続けています。皆様は、外国旅行や外国滞在の経験者も多く、外国への関心が高いと聞き及んでいます。本授業では、世界遺産や略史や簡単な日常会話表現、さらには芸術文化にも触れることにより、欧州文化の全貌解明を目指します。共に頑張りましょう！

情報学科

上栢 英之



本学非常勤講師

課題研究

授業では画像処理を学んでもらい、最終的には持参してもらった写真に処理を施し、アルバムにすることを目標としています。コンピュータとデジカメの普及によって画像処理は決してプロのための技術ではなくなっています。この機会に是非習得していただきたいと思います。

小田桐 良一



本学教授

応用情報、情報特論 (前期)
プログラミング (後期)

応用情報授業では、PowerPointを用いた口頭発表を前提としたスライド作成や、大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を行います。

垣東 弘一

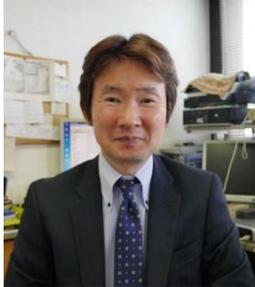


本学教授

基礎情報 (前期)
ICTリーダー技法 (後期)

P8に記載しています。

情報学科

情報学科		
清水 五男	難波 宏司	堀田 博史
		
本学非常勤講師	本学准教授	本学教授
プログラミング (前期) 基礎情報 (後期)	課題研究	インターネット活用 (後期)
<p>皆さんは、情報に関することを学ばれる機会は少なかったと思いますが、本学でパソコンが実用的に使えるように学習に励んでください。学習の上で大事なものは、基礎・基本をしっかりと身につけることです。情報教育センターを十分に活用していたら、情報化社会への対応力を育んでください。</p>	<p>最近、プログラミングがブームです。以前、プログラミングは若い人しか無理といわれていましたが、今はシニアのプログラマーが大活躍です。以前のシニアは最初から毛嫌いしていましたが、今のシニアの方は何でもチャレンジしようという現れなのかな。</p>	<p>学び続けることで、新たな興味が芽生えます。私も皆さんと一緒に学び続けたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
山口 美緒里	山本 恒 (ひさし)	植田 みどり
		
本学非常勤講師	本学名誉教授	情報教育センターTA
基礎演習 I、基礎演習 II インターネット活用、応用情報	応用演習 I、応用演習 II	応用情報、課題研究 プログラミング(1)
<p>MS Office やインターネットなど、パソコンのできる便利なツール活用を担当いたします。今や、パソコンとインターネットさえできれば、何でもできる時代です。情報を使う力は子供から大人まで必須になりつつあります。一緒に生涯学び続けましょう！</p>	<p>学びは人生を豊かにします。特に自ら考えながら試行錯誤を繰り返して得た知見は、いろんな場面で応用できる生きたものになります。また、せっかく共に学んでいるのですから、共に高まろうとする学び方も大切です。一緒に授業を作り上げていきましょう。</p>	<p>微力ではありますが皆様と一緒に授業に取り組み、多くのことを学べるようにサポートを頑張ります。パソコンのことで分からないことがありましたら気軽に質問に来てください。よろしく願いいたします。</p>

情報学科

辻井 美奈

堀越 直穂



情報教育センターTA

情報教育センターTA

基礎情報（前期）、情報特論、
インターネット活用（前期）

基礎演習（前期）、応用演習 I

皆さんの学習を少しでもサポートできればと思っています。パソコンの操作で困ったことや不安なことがあればいつでも聞いてください。よろしくお願いいたします。

分からないことや困ったことなど、いつでも質問してください。パソコンが楽しい！学校が楽しい！と思っただけのよう、頑張ります。一年間よろしくお願いいたします。

【松本 和明先生メッセージ】

江戸時代の政治・社会について、今回は宗教・寺社支配のあり方を事例にパワーポイントを使い画像を交えながらお話いたします。その際、史料もあわせて読み解いていきます。歴史学の基礎は史料読解にあります。史料から何がわかるのか、また、江戸時代とはどのような時代だったのかを考える機会になれば幸いです。

【垣東 弘一先生メッセージ】

情報社会が急速に変化・変容している現在、コンピュータやネットワークは非常に便利になった反面、扱う方向を間違えると大きな事故が起こるなど厄介なものでもあります。私たちは情報の正しい知識と技術を習得し、安全で快適な情報社会での生活を過ごしたいものです。授業では難しい内容にも出くわすかもしれませんが、最後まで一緒に頑張っていきましょう！

平成28年度シニア専修コース卒業式

3月10日（金）の午後1時から平成28年度シニア専修コースの卒業式がAVホール（3号館図書館2階）で執り行われ、川島学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。卒業生は、文学歴史学科…15名、国際文化学科…6名、情報学科…19名でした。



卒業式に際してお祝いの言葉を述べられる川島学長



卒業式風景



祝辞を述べられる木村総合生涯学習センター所長



卒業証書の授与



けやきコーラス部の歌によるお祝い



卒業式会場の様子

（取材と写真：「けやき便り」編集クラブ 平田、井上、樽井）

平成28年度卒業生からのメッセージ

文学歴史学科卒業生 有志

光陰矢の如し。ケヤキ並木を見ながら通った学生生活は、あっという間に3年の時が流れました。

この間、素晴らしい環境の中、楽しく学び多くの仲間達と過ごした楽しい日々は、ひとえに先生方、総合生涯学習センタースタッフ、そして仲間達のお蔭です。

卒業はゴールであり、また次のスタート！ まだまだ元気なシニアとして頑張ります。

石田 進

この3年間あっという間に過ぎ、いろいろな人と出会い、教えて頂いている内に、もっともっと知りたい、学びたいという気持ちになりました。

ホント“生涯” “学習”です。

伊藤 幸子

三年間があっという間に過ぎました。学ぶことの楽しさと素晴らしい友人に出会えたことがなによりです。

河野 和子

3年間、文学・歴史を学びましたが、知らない事を知るといふ、喜びに満ちた日々でした。また、授業内容に関連した本を多く読むようになり、本来、読書が好きでしたので、大変充実し、幸福感さえ覚えます。

また、シニア学生の中には、多才な方が多く敬服します。これからもお世話になりますが、よろしく願います。

岸本 美也子

55年ぶりの卒業式です。感銘深いです。3年間はあっという間でした。皆様方には大変お世話になりながら、何もお手伝いできませんでした。研究科にいく予定をしております。その節にはまたよろしく願います。

木畑 清

最寄り駅JR塚口から学校まで片道徒歩25分、遠かった～ 三年間よく頑張りました。授業前に図書館で過ごす1時間ばかり… 至福の時間でした。

学食で仲間達との他愛ないお喋り。お蔭様で元気で修了式を迎えることが出来ました。

北澤 美津子

真実一路、出会い燦々、これからもよろしく
合田 一弘

講師の先生方に出会い、たくさんの友人に出会い、学ぶ楽しさを味わうことの出来た三年間でした。

高橋 京子

「日本の風土と文化」で受講した『出雲国風土記』の世界に憧れ、邪馬台国の卑弥呼の痕跡を捜しに、昨年出雲を訪れた。

沢山の銅鐸、銅剣、鏡などが発掘された現地や古代出雲国が作った四隅突出形の古墳を見て壮大な歴史に感銘した。

今後も更に歴史の勉強を深めたい。

藤原 幸雄

大学を卒業してから40年以上経って新たに学舎に入学し、瞬く間に3年が過ぎ、卒業を迎えました。講義に、けやき遊歩クラブに、同級生と食事やカラオケにと、楽しい学生生活をありがとうございました！

森川 博司

まだまだ忙しい世界からは卒業できず、実現不可能？ と思いながら、私のようなものでも皆様のお蔭で今日の日を迎えることが出来ました。大きな誇りでございます。

今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。
山口 敬子

年金下がって血圧上がるという艱難辛苦にたえ、書読む月日重ねつつ、いつしかみとせも杉の戸を開けてぞ。

吉井 明夫

あつという間の3年間でした。本当に短く感じて皆さんにも仲良くして頂いて、私の大切な時間になりました。ありがとうございました。

吉岡 美恵子

光陰矢の如し。卒業式も終わり休まず学校へ。頭も身体も壮快、趣味、学びと意気込まず適度にブラブラ体を動かすこと。特に行先も決めずブラブラ散歩、多少型崩れしても気にしない。ブラブラ体操で健康維持と？ しかし園田へ行くようになったら「これはいけまへん」ブラブラではと思い、家から一目散に園田へ。帰りはジムで身体作り。学校では漢詩を読む。楊貴妃音曲に通じて玄宗の寵をもっぱらにし駅の仏堂で殺された。

能 一楊貴妃を失った玄宗の命を受け、方士が仙界の蓬莱宮まで探しに（魂）。この授業、長恨歌大変面白かった。能を見ても良く理解出来た。研究生になって、又佛教を学んでいこうと思った。

山田 弘子



パステルで描かれた山田さんの作品

*文学歴史学科の卒業生の皆さま、卒業にあたっての寄せ書きどうもありがとうございました。

「けやき便り」編集クラブ

園田シニアの3年間を振り返って

研究生 永井 ツネヨ

私は今春情報学科を卒業しましたが、3年間はあつという間に過ぎたように思います。

情報学科には18名入学しました。入学後の新入生歓迎会で2年生、3年生となるにつれ人数が減っていることを知り、クラス委員の方々が「みんなと一緒に卒業できるように協力し合おう」と提案してくれました。クラスの中でもパソコンのスキルには差があり、授業のあと解らなかった人に教えようと、空いている教室に集まり協力しました。その日の復習のあとにも、MOS試験の問題を解き合って夕方まで勉強したりしましたが、それは充実した時間でした。

2年生になる時にやむを得ない事情で二人退学しましたが、休学中の先輩が二人復帰されたので人数は同じでした。私は2年生になってけやき遊歩クラブに入部しました。学年や学部を超え友達の輪が広がり、山歩きやハイキングを楽しみました。またクラスでも親睦を図る目的で毎月ハイキングを計画していろんな所に行きました。私たちの連絡手段は山本先生が開いてくださったパソコンの「レクチャーエイド」の中の「みんなの広場」でした。これは授業のためのものでしたが、授業終了後、さらには卒業後も使用できることになり、連絡や情報交換の場として活用しています。私たちのクラスは仲がいいとよく言われますが、一緒に過ごす時間も多く意思疎通がはかれていたからでしょう。

2年生になった時にクラスの友人に写真倶楽部にも誘われましたが、興味がなかったので断りました。ところが、数か月後に一眼レフカメラを衝動買いしてしまい、3年生の時に写真倶楽部に入部しました。毎月撮影会でいろんな場所に行き写真の勉強をしました。暑かったり、寒かったり、うまく撮れなかったりと大変でしたが、楽しかったことだけが思い出されます。

3年生でクラスメートが一人増え、情報学科は19名みんな卒業することができました。楽しく過ごした3年間でした。

平成29年度シニア専修コース入学式

4月6日の14時から平成29年度のシニア専修コースの入学式が川島学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、AVホール（3号館2階）で執り行われ、学長から新入生への入学許可書が授与されました。新入生は、文学歴史学科…19名、国際文化学科…5名、情報学科…14名の38名です。



入学のお祝いの言葉を述べられる川島学長



川島学長から入学許可書を授与される新入生代表



文学歴史学科



国際文化学科



情報学科



オリエンテーション風景



クラブ紹介「けやき便り」編集クラブ



クラブ紹介 ITを楽しむ会、
テニス同好会、遊歩クラブ



クラブ紹介 カラオケクラブ



クラブ紹介 軽音楽同好会



クラブ紹介 コーラス部

(取材と写真：「けやき便り」編集クラブ 平田、井上、宮本、樽井)

平成29(2017)年度 新入生誌上座談会

これから3年間 とともに楽しく学びましょう!

～シニア専修コースによるこそ～

「けやき便り」編集クラブでは、新入生の方(5名)の入学に向けての動機、感想などを、アンケート形式で集約し、「誌上座談会」としてまとめました。

《参加者》 柏木 建男(文歴) 河野 貢(国際) 村井 淳(情報)
杉本 眞智子(文歴) 大林 泰子(情報)

<入学した動機を教えてください>

柏木 3月末に退職し時間に余裕が出来たので、興味のある科目を学びたいです。また、新たな交流を期待しています。

杉本 若い時から日本史、古典が好きなので、しっかり勉強したいです。シニア専修コースでは、腰を落ち着けて勉強出来ることを期待しています。

河野 好奇心を持ち続け、有意義な生活を送りたいと思い、そして国際事情、異文化に興味があるので入学しました。

村井 現役時代にWord、Excel等を体系的に学ぶ機会を失ってしまったため、改めて本学において関連する知識・技術を身につけたいと思い入学させていただきました。

大林 情報学科に入学の動機は、仕事で文章・表作成のためパソコンを使用していましたが、基礎知識を知らないまま仕事に必要な操作のみ習得したため、この情報学科で基礎から学ぼうと思いました。

<ご家族の反応はいかがですか>

柏木 新しい事への取り組みに対して応援してくれています。また、受講内容に関する私からの情報提供を楽しんでいます。

河野 退職後も、家にいず、勉学に励むことは、「とてもいいことだ」と大いなる賛同を得ています。

村井 情報学科を選択した私に向かってアウト

ドア派の妻は「わざわざ自分を追い込むようなことをするのは、あなたの性分だから仕方がないですね」と言っております。

<やりたいこと、挑戦されたいことは>

柏木 最初の1年間は文歴の必修科目ですが、2年目以降面白そうな科目を探して受講したいです。

杉本 日本人の精神的・思想的背景を歴史のいろいろな面から調べてみたいと思っています。

河野 園田シニア専修コースは、1人(或いは2人)の先生がシリーズで長く講義されるので、大学時代と同じ形式で勉強でき、知識を習得できるように思います。

村井 我が国の内外で暗躍するサイバーテロに対し、パソコン等を最大限活用して反撃できる知識・技術を身につけることができれば・・・と夢見ているところです。

大林 未だ具体的に見つかっていませんが、今後学びながら見つけていきたいと思っています。ただ3年間勉強して得た知識で、少しでもパソコンの使い方がわからない方の力になればと思っています。

<学園生活を始められての印象は>

柏木 こじんまりした学園で、雰囲気も気に入っています。女子大ということで少し戸惑いがありましたが、あまり違和感なく溶け込めそうです。

杉本 授業が楽しく入学して良かったと思いました。また、若い学生さんたちのエネルギーを感じて、私自身も若がえった気分になっています。

河野 国際文化学科ですが、入学したのが5名でショックを受けています。今年は異例であると同っていますが……。5名であっても何とかこの人数で3年間頑張り無事卒業したいです。他の学科の人と共通で学ぶ機会がないのが残念です。

村井 90分が瞬く間に過ぎ去っていくような充実感を覚えております。しかしながら、授業が終了するやすぐ教室から追い出されてしまい、同期生達としばし授業の内容等に関し話し合う場がないので困っています。

大林 女子大生の皆さんの明るく元気なパワーを横目で見ながら、ほんの少し学生気分を楽しんでいます。図書館を利用することができ、閲覧だけでなく貸出もできるのが嬉しいです。

<授業やクラブ活動などについて>

柏木 まだ数回しか受講していませんが、授業が面白く90分間が短く感じています。

クラブは「けやき遊歩クラブ」に入りました。これまでは、1人で行動することが多かったのですが、クラブの方々と一緒にできるのを楽しみにしています。

杉本 どの授業も面白く必修科目以外にも受けたい授業が多く困りましたが、まずはポチポチとやって行きたいと思っています。

河野 授業は、まだ数回しか受講していませんので、それだけの範囲での感想になりますが、興味深く受講できて満足しています。強いていえば、質問時間が欲しいです。授業中に質問をしています。

村井 90分の授業時間に加えて30分程度、先生との質疑応答時間が欲しいところです。

クラブ活動については「けやき遊歩クラブ」に入会したいと考えています。

大林 先生方はとても親切丁寧で、楽しく授業を受けています。授業の進み方が少し早い時もあり聞き逃すと焦ります。

クラブは、「けやきITを楽しむ会」に入部し、「パソコンコース」、「スマホ・タブレット勉強会」で学ぶ予定です。

<先輩たちや総合生涯学習センターなどへの要望について>

柏木 先輩方には、交流会等の場を通じていろいろと経験を聞かせていただき、またアドバイスをいただければと思っています。

杉本 わからないことだらけですので、いろいろと教えていただきたいと思っています。

河野 先輩たちへの要望と聞かれても、現時点では交流がないので、コメントができません。

総合生涯学習センター（事務局）への要望は、学科別に担当者が1人いて、国際文化学科なら、この担当者に聞けば不明な点、相談したい点は、迅速に対応してくれるというのが望ましいです。つまり学科別に専任の担当者を配置していただきたいと思っています。

村井 既に卒業された皆様が、3年間に亘って学んだ知識等を活かしてその後どのような分野で活動されておられるのか、是非お聞きしたいものです。

大林 今は目先のことで精一杯で考える余裕がございませんが、これからゆっくりと考えていきたいと思っています。

編集クラブ ご多忙のところ誌上座談会に参加していただき有難うございます。座談会では、皆さまの知識欲を追求する前向きな言葉があふれ、楽しい学園生活への期待の大きさを感じました。

（まとめ：「けやき便り」編集クラブ 藤原）

みんなの尼崎大学はじまるの会！

11月26日（土）と27日（日）の二日間にわたり、「みんなの尼崎大学はじまるの会！」が、尼崎市・尼崎市教育委員会の主催、園田学園女子大学の共催で開催されました。「みんなの尼崎大学」は、「みんなが生徒、みんなが先生、どこでも教室」をスクールモットーにして、地域のだれもがどこでも楽しく学べるまちにするためのプロジェクトです。初日の26日はシニア研究生の中村米三郎さんと徳田将之さんのお二人が分科会の登壇者として発表されました。以下、二日間の様子をお伝えします。

第一日 「まちと学びのイイ関係～尼崎市内外の事例をもとに～」（会場：園田女子学園大学）

午後1時にはじまったオープニングで、村山尼崎副市長、川島園田学園女子大学学長の挨拶があり、続いて稲村尼崎市長から30分にわたる基調講演がありました。「ありたいまち」を描き、市民みんなで「みんなが生徒・・・」のモットーのもとで「まちのあちこちに学びの場を」をつくらうという、とてもわかりやすい力強いメッセージでした。



稲村尼崎市長の基調講演

その後、五つの分科会に分かれて、1時間半にわたりそれぞれのテーマに沿った発表や質疑がなされました。中村さんと徳田さんは「わたしの学び×活かす場」をテーマとした分科会に登壇者として出席されました。コーディネーターの司会のもとで、5人の登壇者がそれぞれの活動の報告を約8分間ずつ行い、質疑応答へ。

若い方からシニア層までの30名近い参加者から次々と質問があり活況を呈しました。さて、われらがシニアのエースお二人の発表を紹介します。



中村さんの発表

中村さんは「わたしの学び」という題名で、リタイア後の生き方を発表されました。70歳までボランティア中心に活動し、71歳から園田学園女子大学シニア専修コースの国際文化学科に入学。そして74歳で研究生となってから78歳となる現在までクラブ活動に重点をおき、「けやきテニス同好会」「けやきITを楽しむ会」「けやき遊歩クラブ」などの運営や活動をやっておられます。シニア専修コースの「授業」もこうした「クラブ活動」も、中村さんのモットーである「健康寿命維持」のために必要な「頭脳の老化防止」「体力の維持」「仲間づくり」にプラスになるのであれば、「学び」であるとお話でした。参加者からは中村さんのバイタリティーに賞賛の声、司会者からは、中村さんがシニア専修コースに在籍したこれまでと、仮に個人で活動していたらどうであったかを想定して、表に並べて比較考察したところが素晴らしいとのコメントがありました。

徳田さんは平成28年1月の公開講座「人間を考える」で講師として話されたテーマ「私のコミュニケーション術」からリタイア後の自由時間は、現役時代の就労時間と同じ8万時間もあり、その時間を財産と捉え如何に有意義に過ご

すかについて、発表されました。「夫がリタイアして自宅ばかりにいると妻が『主人在宅ストレス症候群』になる。積極的に外出して、いくつか示された例の『妻にきらわれない』方法を実践すべし」であり、その為に見つけた園田学園女子大学シニア専修コースは私のパラダイスである、など冒頭から聴衆の爆笑を誘います。今年になってはじめられたバンド活動の様子も紹介、最後までユーモアあふれる発表で大好評でした。



徳田さんの発表

もう一人、同じ分科会の若い登壇者を紹介します。26歳の藤本さんの「市民の手作り公民館オトナテラコヤ」です。使っていなかった喫茶店を借りて手作り改装し、昨年9月以降、毎週2回寺子屋を開催しているそうです。「誰もが何かのスペシャリスト」との思いのもと、むしろ日ごろ先生をやったことがない人に先生になってもらい、軽重・硬軟さまざまなテーマを取り上げています。参加することで、様々な分野への関心の幅が広がり、たくさんの仲間ができるといいます。まさにみんなの尼崎大学を先取りするような活動で、世代やグループといった枠に捕らわれない「まなび」とおした活動が、あたらしい地域や人と人のつながりをつくりだしそうな予感を与えてくれました。

分科会のあとは、再び参加者一同が集まり、約1時間「振り返り」の会を行いました。5つの分科会の各コーディネーターから分科会の様子を「キーワード」とともに報告していただいた後、パネルディスカッションで、みんなの尼崎大学の今後の可能性などについて活発な討議が行われました。



パネルディスカッション

(写真と文：「けやき便り」編集クラブ 宮本、櫻井)

17時から「開花亭」で交流会の席が用意され、稲村市長はじめ殆どの登壇者と多くの参加希望者で賑わうなか18時45分に1日目の予定を終了しました。席上、名刺交換させていただいた稲村市長の名刺には「ひと咲き まち咲きあまがさき」とキャッチコピーが印刷されましたが、その通り尼崎市、すごい！

頑張っています。(文：研究生 徳田)

第二日「みんなの尼崎大学の考察とこれから」

(会場：尼崎市役所中央支所)

2日目の27日は、前日の会場園田学園女子大学が使用できず、会場は阪神尼崎駅前にある尼崎市役所中央支所になりました。

まず、前日の各分科会のコーディネーターの5名が登壇され、各分科会の要約を説明され、今後の尼崎のまちづくりと学びの関係とその効用に対する考えを話されました。

少し、休憩があり、「みんなの尼崎大学の考察とこれから」というテーマでパネルディスカッションがありました。そのコーディネーター・パネラーは、東京大学大学院教授、文部科学省課長、九州大学大学院准教授、兵庫教育大学准教授、尼崎市顧問、尼崎市副市長と錚々たるメンバーで、そのディスカッションの内容をお伝えできないのが残念ですが、尼崎市がこの「みんなの尼崎大学」にかける意気込みが伝わってきました。最後に、稲村尼崎市長のお礼の挨拶があり、「みんなの尼崎大学はじまるの会！」はクローズしました。(文：研究生 中村)

園田学園女子大学公開講座 「人間を考える～園田から発信する『〇〇力』～」

シニア専修生が講師として発信

2017年1月7日（土）、本学シニア専修コースの研究生の峠田桂子（たわだけいこ）さんと木村勲（きむらいさお）さんが公開講座「人間を考える」で講師を務めました。

最初に総合生涯学習センターの大野明子課長から、『人間を考える』講座が30年以上続いている歴史や専修コースの研究生を迎える意義と、二人の講師紹介がありました。

◆「園田から発信する『楽しく生きる力』」

峠田 桂子さん

峠田さんから「楽しく生きる力」と題してパワーポイントを使った講義がありました。戦中・戦後と父の転勤で、9回の転居をされました。

「忘れていいのか、あの戦中・戦後」どう生きてきたのか「楽しく生きる」を忘れられていた



子供時代、疎開先で覚えた畑作り、学校で習った裁縫、都会に戻ってから、それらを生か

されました。空き地に食物を作り収穫、廃物利用で衣服を作り着る喜びがありました。就職した外資系会社6社では、多種多様な経験をされました。

困難は、生きる力となる過程であったことや良き言葉を探し、忍耐力と決断で過ごしてきたことなどを話されました。「楽しく生きる」には、相手の立場を理解し、精神的、肉体的に健康であること、命あるものを大切にすること。

「Learn from yesterday, Live for today, Look to tomorrow（昨日から学んで、今日にいきること、そして明日に期待して行こう）」と結ばれました。

◆「人間を考える」

木村 勲さん

現役時代の観光開発企画や宣伝物制作といった木村さんの体験は、商売の基本である「三方よし」だったといいます。ネクタイを外しありのままの自分をさらすことのできる現在の生活は、日本史などの学園での学びとけやき写真倶楽部と軽音楽同好会の活動の「二毛作」だと黒板に大きく板書されました。



けやき写真倶楽部では通常の活動以外にイベントを企画し、活動を活性化させてきた意図と実際の様子が語られました。けやき祭では写真展示と共に、撮影した記念写真をプレゼントし、そこから触れ合いが生まれ、喜んでもらえたといいます。相手だけでなく自分たちも喜び、そこから何かが生まれるという現役時代の精神とつながっていると木村さんは語られました。

最後に、木村さんは弾き語りで「シクラメンのかほり」を熱唱して講義を終えました。



二人の講師に共通するのは、シニア専修コースに来たから

こそ得たものがあり、シニアでの出会いが次のステップへつながったということでした。講座には40名を超える参加者があり、シニア専修コースの受講生も応援団として参加しました。

（取材と写真：けやき便り編集クラブ 河田・宮本・井上・平田）

楽しいステージで盛り上がった「シニア専修コース 新年交流会」

2017年、年明け早々の1月20日（金）16時から開花亭に於いて「けやき写真倶楽部・軽音楽同好会」の共催による新年交流会が開催されました。

I部（会食）では、総合司会の木村勲さんから



「シニア専修コースに学ぶ学生が学科を越えて一堂に会して懇親を深めていただきたい」と

の開会の挨拶があり、続いて総合生涯学習センターの大野課長、シニア専修コースの学生の代表として中村

米三郎さんの挨拶、最後に橋本秀明さんの音頭で乾杯後、待ちかね



た皆さんがテーブルに並んだいろいろな料理を選んで、ブッフェ会食に移りました。



II部（クラブ活動の現況と活動報告）では先頭を切って「けやきコーラス部」による合唱で「たんぼぼ」、「ビリーブ」、「糸（中島みゆき）」、「ラブユー東京」の4曲を披露。なかでもロスプリモスが歌って大ヒットした歌謡曲

「ラブユー東京」は、合唱で聞くととても新鮮な感じがすると好評でした。



続いて「けやき遊歩クラブ・けやきテニス同好会・けやきITを楽しむ会」の3クラブ合同の有志による「四季の歌」と「青い山脈」の合唱。シニア専修コースのクラブで圧倒的な部員数を誇る「けやき遊歩クラブ」を中心とした大勢の皆さんが、舞台一杯に広がって歌唱される姿は迫力満点でした。



「けやき写真倶楽部」からは内田裕久さんの謡曲と特別参加の木村佳子さんの鼓の共演。普段はあまり聞く機会がない演奏に、皆さんからは素晴らしいとの声があがっていました。



その後「軽音楽同好会」から木村勲さん、野間淑美さん、徳田将之さんによる1stステージとして以下の5曲の演奏が始まりました。



- (1) 夢の中へ (井上陽水)
- (2) 花はどこへ行ったの (ピーター・ポール&マリー、他)
- (3) 風に吹かれて (ボブ・ディラン)
- (4) 旅人よ (加山雄三)
- (5) イムジン河 (ザ・フォーク・クルセダーズ)

シニア世代には懐かしい名曲ばかりで思わず一緒になって口ずさんでおられる方も。

「けやきカラオケクラブ」からは小西温代さんの「三百六十五夜」の歌唱。年齢を感じさせない美しい声に皆さんから大拍手が。続いて国際



の歌姫、中道里美さんの「ちゃんと言わなきゃ愛せない」で張りのある歌声の披露、最後の木下俊造さんの「民謡鉄砲節」では曲に合わせて踊りを繰り出す人たちまで現れて会場は大いに盛り上がりました。



次のステージでは、「けやき便り」編集クラブを代表して金森扶美子さんが志賀直哉『転生』を朗読。今までの賑やかさとは一変して会場の皆さんが静まり返って、流れるような見事な朗読に聞き惚れていました。



最後を飾って「軽音楽同好会」の皆さんが再びステージに登場。

- (1) 戦争を知らない子供たち (ジローズ)
- (2) 上を向いて歩こう (坂本九)
- (3) 知床旅情 (加藤登紀子)
- (4) シクラメンのかほり (布施明)
- (5) 悲しき街角 (原曲：デル・シャノン)

の5曲の演奏に加え、アンコールの声(?)に答えて、更に2曲のメロディーを披露。

すべての演奏が終了したところで木下俊造さんによる閉会の挨拶にてお開きになりました。

今回は、各クラブからの積極的な呼びかけもあり、シニア専修コースから総勢77名の多くの方たちの参加がありました。また、国際文化コースの学生たちの招待に応じて、松山利夫先生が特別に参加されました。



参加者の皆さんからはとても楽しい交流会だった、今後も継続して開催して欲しいという声が多く聞かれました。今回の交流会の事前準備に協力いただいた方々やステージで活躍された皆さまに感謝するとともに、これを機にシニア専修コースの学生の輪がさらに広がることを期待してやみません。

(写真と文：「けやき便り」編集クラブ 平田、井上、宮本、樽井)

第2回 情報学科同窓会の開催

研究生 佐治 登志子



情報学科も今年の卒業生で6期生までそろいます。昨年初めて開催した同窓会を、今年も2月9日(木)「かごの屋」で行いました。お昼の12時から2時間、今年は3期生が幹事です。



当日、朝からの大雨にもかかわらず、お一人のキャンセルもなく、1期生5名、2期生2名、3期生4名、4期生2名、そして5期生4名の計17名の参加をいただきました。

今年と同窓会で一番うれしかったことは、1期生の方々の多数の参加です。卒業後、連絡方法がわからず、歯がゆい思いをしていたのですが、2期生のAさんとOさんのご尽力で1期生の方々への連絡がとれました。

1期生の方は、シニア専修コースが誕生する

前の、聴講生制度があった時代から長年にわたって勉強を続けられてきました。それだけに、勉強に対する熱意・意欲は人一倍強く、専修コースが5年間で終わってしまうのは残念で、もっと続けられるようにしてほしいと署名活動などもされてきました。

そのような貴重な思い出話から始まって、2期生以下全員が、近況報告や情報学科での思い出などを順番に話していきました。デザートとコーヒーのあとも話は尽きず、お開きになった時には雨もすっかり止んでいました。

次回、第3回同窓会は今年の卒業生6期生も加わり、ますますにぎやかなものになることでしょう。



文歴12期生の懇親会（新年会）

研究生 大芝 利文、青木 利明

平成25年に文学歴史学科に入学した「文歴12期生」の新年会を兼ねた懇親会を1月18日実施しました。入学時25名でしたが、現在の在籍者は23名で、その内19名が出席しました。

相変わらずこのクラスの出席率が高いです。場所はいつも利用する大学近くのレストラン「かごの屋」の一室です。



3名（男性1名、女性2名）の方から次年度以降の受講断念の表明がありましたが、その他の16名からは継続する旨と受講希望科目数などについて報告がありました。

現在は全員研究生で、受講日はマチマチですが、水曜日の3時限の授業を受ける人数が一番多いので、この日その授業が終わった後の14時50分から懇親会を始めました。参加者の構成は男性8名、女性11名。

昼会席を食べながら愉快地懇親が進みました。近況報告から始まり、受講科目の印象、趣味関係等々、懇親内容も多岐に渡りました。

懇親会半ばから、各人の近況と次年度の受講有無についての報告を頂きました。



今後受講継続者、断念者と道は分かれますが、文歴12期生の懇親会は今後も続けていくことが確認された新年会でした。

国際10期生（十色会）の親睦会

研究生 阪田 正樹

今年も2年前に卒業した9人の仲間が集まり（1人欠席）旅行に行きました。場所は加太温泉です。南海なんば駅に12時に集合ということになっていましたが、30分も前から続々と集まりました。1年ぶりの再会です。卒業後1年目は10人全員研究生になったのですが、去年研究生から4人の方が完全卒業し、また、研究生同士でも曜日、履修科目の違いでなかなか会えないのです。クラブ、食堂で会うのですが、なかなかお話もできません。

ここから南海電車の特急に乗り道中お互いのいろんな話をしながら、加太駅に着き、旅館へ行き、その足で、淡嶋神社に行きました。

淡嶋神社（あわしまじんじゃ）は和歌山県和歌山市加太にある神社。加太淡嶋神社、加太神社とも。2月8日の針祭、3月3日のひな流しなどでも有名ですが、特筆すべきは境内一円に奉納された2万体ともいわれる無数の人形であり、その様はひとえに壮観です。



宿に帰り、風呂に行きました。

お風呂は「炭酸水素塩泉（重曹泉）」で美人の湯で知られ、しっとりぬめりのあるお湯が美肌効果をもたらします。女性の皆さんはもっと美人になったように思います。湯冷めしにくいつまでもポカポカです。

いよいよ鯛三昧と焼きアワビの食事です。ビールで乾杯のあと焼酎をボトルで注文し、近況の話をしましたが、健康とかの話が多かった。



食事も終わり、部屋に戻り、二次会です。持ち込みのビール、焼酎、おつまみを食べながら歓談しました。話の中で、十色会という名前で、みんなの色は何色かとの話になりました。酒井さんはピンク、塚本さんは黒、高橋さん緑、道端さん赤、日笠さんオレンジ、金森さん白、村井さん青、阪田黄色、川西さんなぜか合わない水色ということになりました。

明日は「友が島」に行きます。

友ヶ島は第2次大戦の終わるまでは旧日本軍の軍用地で、大戦中の施設も多く残され6カ所の砲台跡のほか紀伊防備隊の海軍聴音所、弾薬庫、軍馬舎、将校官舎、厠なども当時の面影を偲ばせてくれます。島内の歩道はほとんどがかつての軍用道路でハイキングコースになっています。



今回の旅行は園田女子学園大学シニア専修コース国際文化学科で学んだことで集まったいろんな経験（十色）をもった人たちで一期一会を大事に続けていけたらいいと思います。

来年も元気で会いましょう！

文学歴史学科新入生歓迎会

文学歴史学科2年 宮岡 憲次郎

“人と人との出会い”を改めて考えると、それは気の遠くなるような天文学的数字の低い確率であり、あの広いゴビ砂漠でうっかり落とした指輪を、数年後偶然見つけるようなものです。

そんな偶然の奇跡的な出会いが、新しい世界の扉を開くことを願って、5月22日(月)、文学歴史学科の新入生歓迎会をチャティで行いました。

新入生14名、先輩方18名、私たち2年生18名、そして吉村先生、桑原先生と大野課長の計53名の参加がありました。予想を上回る参加者で、4月初めから2年生が力を合わせて取り組んできた成果だと嬉しく思っています。

2年生の開会の挨拶の後、3人の来賓の方に言葉をいただきました。桑原先生は「豊かな人生経験を積んだ私たちのキャンパスライフは、青春時代の学生生活とはまた一味も二味も違う素晴らしいものになるだろう」と、また吉村先生は「卒業後も大学に残りたいという向学心に燃える先輩たちに心動かされ、研究科を設けたエピソードを交え、先生の講義に、今91歳の方がおられ、学ぶことと年齢とは無関係だ」ということを、そして大野課長は「私たちといろんな意見を交換しながら、私たちがよりよい学園生活を送れるよう尽力していきたい」と。3人のお言葉はとても力強く心に残りました。



その後ジュースで乾杯し、2年生と有志で歓迎の歌「切手のないおくりもの」を合唱しました。

そしてその後がこの日のメイン、1年生の自己紹介。14名全員に各自の入学の動機・目的・抱負・趣味等について語ってもらいました。やや緊張した面持ちで幾分照れながらの紹介は、さわやかで初々しく、とても好感がもてました。

「この大学に来たのが、人生の大転換になった」とか、「きょういく(今日行く所がある)、きょうよう(今日用事がある)を実施するため、通学定期を購入した」とか、「マニアックな映画ファンで収録したビデオを1日中みている」とか、「新しい自分に会うためここに来た」とか、実に個性的で楽しい話ばかりでした。新入生のみなさんが希望や期待をもって、この園田学園に来られたのだと痛感しました。

なごやかなムードの中、時が流れていき、先輩たち5名からのクラブ紹介の後、閉会の辞、そして全員で記念撮影をしました。



2時間ちょっとの短い時間でしたが、各テーブルごとに、学年の枠を超え新旧交えて語り合い、交流を深めることができたように思います。同学年の横のつながりは勿論、学年を超えた縦のつながりも大事だと強く思いました。こうしたイベントが先輩から後輩へと受け継がれ、学科の伝統行事として今後も続いていくことを願ってやみません。

この出会いをきっかけに今後たくさんの人と知り合い、より充実した学園生活を送られることを期待しています。

先輩の方々、吉村先生、桑原先生、大野課長どうもありがとうございました。

平成29年度「情報学科新入生歓迎会」開催！！

新入生を迎え平成29年度「情報学科新入生歓迎会」が、夏めく5月15日（月）5号館2階「チャティ」で開催されました。当日は、多くの「若者」が集い盛大な歓迎会となりました。

歓迎会の参加者は、新入生9名、2年生7名、3年生9名、研究生9名、OGの皆さん4名、来賓6名と44名の参加となりました。



会は、16時30分より2年生・大西さんの司会で始まり、来賓として山本先生、山口先生、総合生涯学習センター大野課長から挨拶、祝辞をいただきました。次に3年生の中田さんから乾杯の発声をいただき、その後に歓談、飲食となりました。



料理は大学生協にお願いしてオードブル、おでん、焼きそば、そしてビール、日本酒、焼酎、ワインなど豊富な品揃えです。

歓迎会では、新入生の大林さん、村井さんから力強い決意表明と、そして諸先輩から学習アドバイスを頂きました。



歓迎会は、第2部として「ビンゴゲーム」が行われ景品獲得を目指し大いに盛り上がりました。そして、2年生の大西さんから閉会の辞を受け、18時に無事終了となりました。世話役の皆さん御苦労さまでした。

(取材と写真：「けやき便り」編集クラブ 藤原)

国立文楽劇場【4月公演】

豊竹英太夫改め「六代目豊竹呂太夫」襲名披露 観劇記

情報学科3年 岡田 真人

ご本人は挨拶せず、ただ頭を下げるだけ、という慣習があるのをこのとき知りました。そのあたりは歌舞伎や落語の世界と違うようです。



国立文楽劇場外観



襲名披露のご祝儀

国立文楽劇場【4月公演】は六代目豊竹呂太夫さんの襲名披露公演ということで、久しぶりに観劇してきました。人間国宝だった祖父豊竹若太夫の血と師匠竹本越路太夫の芸を受け継いだ文楽界のいわばサラブレッド。けれど文楽の世界は歌舞伎のそれと違って門閥が通用しない実力第一主義といわれています。1947年生まれの御年70歳。世界に類を見ない日本が誇る独特の芸能の世界で、厳しい競争を勝ち抜いてきたからこそ今があるのでしょね。

4月公演第1部の演目は以下の通りでした。
寿柱立万歳 (ことぶきはしらだてまんざい)

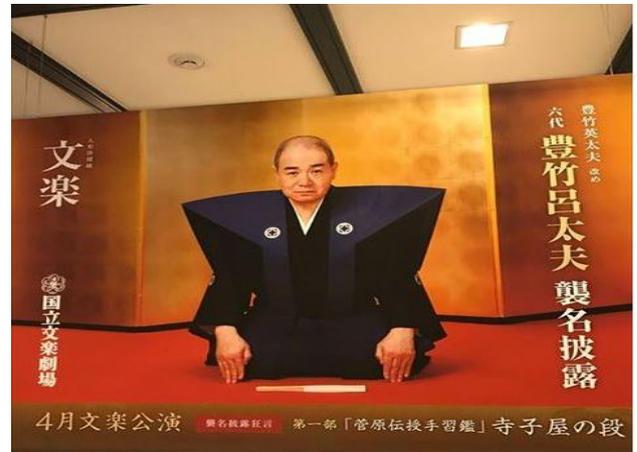
菅原伝授手習鑑 (すがわらでんじゅてならいかみ)

茶筌酒の段
喧嘩の段
訴訟の段
桜丸切腹の段

豊竹英太夫改め 六代豊竹呂太夫
襲名披露 口上

寺入りの段
襲名披露狂言
寺子屋の段

『襲名披露口上』では太夫の豊竹咲太夫さん、三味線の鶴澤清治さん、人形遣いの桐竹勘十郎さんらが口上の舞台に並び、襲名披露独特の華やかさと高揚感がただよいます。文楽の口上は



六代目豊竹呂太夫

『寿柱立万歳』は慶事に行われる演目で、家を建てる時の柱一本一本を様々な神々が末永く守ってくださり、その家は何千年も何万年も栄えるのだと舞い踊る祝儀曲なんだそうです(と、イヤホンガイドが言っていました)。

文楽の三大名作といえは『義経千本桜(よしつねせんぼんざくら)』『仮名手本忠臣蔵(かなでほんちゅうしんぐら)』とこの日の『菅原伝授手習鑑』というのが衆目の一致するところでしょう。この演目は平安時代、太宰府に配流された右大臣・菅原道真がモデルの演劇です。

お待ちかね新呂太夫さんの出番は最終段「寺小屋の段」の前段でした。ここで“松王丸の泣き笑い”という有名なシーンがあり、演者にとっての泣かせどころ、観客にとっての泣きどころがあります。場内のみなさん涙腺崩壊、もの見事に泣かされておりました。太夫、三味線、人形遣いの「三業(さんぎょう)」で成り立つ三位一体の演芸。これが伝統芸の力なんでしょうね。

ちなみにこの日の劇場は襲名披露公演というおめでたい席ということもあり、いつもより着物姿のご婦人方が多くいらっしやって、ロビーはことのほか華やかでした。

記憶の中で今もきらめく本、今、心に響く本

研究生 村松 広子

毎週、土曜日の朝のMBS テレビ「サワコの朝」を好きでよく見えています。阿川佐和子さんが毎回ゲストの人に、記憶の中で今もきらめく曲と今、心に響く曲を選んでもらって、その理由などを語ってもらう内容です。その好きな「サワコの朝」に私がゲストとして出たとして（笑）次の曲を選んでみました。

(1) 記憶の中で今もきらめく曲

中村雅俊・・・「恋人も濡れる街角」（蒲田行進曲の映画で流れる曲です。この映画がととてもとても素晴らしく、階段落ち前夜のヤス：平田満と小夏：松坂慶子とのセリフは感動です。勿論、階段落ちの場面も何回見ても涙がでます）

(2) 今、心に響く曲

馬場俊英・・・「スタートライン」（いくつになっても、いつからでもどんな所からでもやり直しが出来るのではないかと思わせてくれる曲です）

（歌詞の一部）

青春と呼べた 時代は過ぎたのに 今でも
心の奥に 風が吹き抜ける
優しい人にばかり 悲しみが降り掛かる
報われないことがここには多すぎる
だけど そうだよ どんな時も信じることをやめないで
きっと チャンスは何度でも 君のそばに

その好きな番組のタイトルの曲を本に変えて、私の記憶の中で今もきらめく本と今、心に響く本にしてみました。

1. 記憶の中で今もきらめく本・・・石川達三著『人間の壁』

私の中では殿堂入りの本です。高校三年の夏頃、自分の進路をどうしようか迷っていた時に、

親戚のお姉さんに薦められて読んだ本がこの本でした。それまでは源氏鶏太の『東京丸の内』を読んでOLになろうか、幼稚園の先生になろうか、まだまだ将来に不安を持っていた頃でしたので、夢中になって読んだのを覚えています。これをきっかけに教師になろうと思いました。教師になってからも何十回、何百回この本を読んだか分かりません。学級運営に悩んだ時など私のバイブルのように思いました。



物語は昭和31年から翌年5月にかけて、日本全国の学校に勤務評定が政府の方針で導入される事に対してのS県—津田沼市の小学校が舞台となっています。それについての教師達の悩みや奮闘や生活や考えなどを描いています。感動した箇所がたくさんありますが、特に私が心に深く刻まれた文を引用しました。

（男性の沢田先生が金沢の教研集会で出会った元同僚の女性の尾崎先生に言った言葉）

「僕は教師が労働者であることを否定しません。しかし、PTAなんかに要求されて、聖職の仮面をかぶるのは困るけれども、そういう強制をされるのではなしに、自分の心のなかで、教師の仕事に聖職にまで高めたいんだ。教室の中で五十幾人の子供達と相對したときには、教師は

やはり聖職でありたい。一身上の利害も、名誉も、恥も、外聞も、みんな忘れて、ひたすらに教育に奉仕する者でありたい。

あなたのクラスで、鉄道の踏切で死んだ子供、それから海岸のほら穴に住んでいた子供、ああいう子供に対するあなたの態度というものは、一つの祈りだったろうとおもうんです。

僕は黙っていたけれど、あなたの在り方を、尊敬して見ていました。(信頼する者は裏切られる・・・) なぜそんな事を言うんですか。あなたらしくないですよ。あなたはもっと自信を持っていいはずだ・・・」

「自信なんか、ありませんわ」と彼女はつぶやいた。

沢田先生は煙草に火をつけようとして、ふと顔をあげた。女のほおを涙がながれていた。

「どうしたんです」

「いいえ」と小さく頭を振って人さし指の先で涙をぬぐった。そしてはずかしそうにのどの奥で笑った。「なんだか、自分がさびしかったの」さびしかったのは、幸福感にとまどいしていたからかも知れなかった。沢田の話はひとつももらさずに胸にしまい込んであった。彼の言葉で胸の中が一杯になっていた。その充たされた幸福感が、かえって彼女に孤独感と劣等感とをもたらす。このまま消えてしまいたいような気持ちだった。

この箇所(文)にどれだけ励まされた事か、今思っても切なくなります。教師を続けてこられたのも、この本があったからだと思っています。山崎豊子さんが、教育界のことを書きたいが、石川達三さんの『人間の壁』の本が素晴らし過ぎて書けないと言っていました。私もその通りだと思います。

2. 今、心に響く本・・・井上 靖著『額田女王』
園田女子大学のシニアコースの日本文学(I)で影山先生から万葉集などを教えてもらったの

が、この本を読もうと思ったきっかけでした。そのお陰で飛鳥、奈良時代にとっても興味が湧きました。

飛鳥時代の難波宮なにわのみやのことなどがよくわかり、大阪に住む者としては現地にもよく行って本に書かれていることを確かめたりしています。

この本の中で一番、心に響くのは額田王ぬかたのおおきみがこの歌を詠んだところです。

熟田津にきたつに 舟乗りふなのせむと 月待てば

潮もかなひぬ 今は漕ぎ出な(1-8)

額田王

齊明7年(661年)唐・新羅連合軍によって滅亡した百済を復興する為、軍勢を率いて筑紫へと向かう際、立ち寄った熟田津(現在の愛媛県松山市付近の港)を出発する時に詠んだ歌です。私はその場面が目浮かぶようで、心が弱った時など、特に「今は漕ぎ出な」の句を思い出し、又頑張ろうと思います。



額田王というと天智、天武に愛された女性として知られていますが、上記の歌のように、力強くてしなやかな女性のように私には思われま

す。最後に本から色々なことを学んでいるように思います。私自身、なかなか読み切れてない所がたくさんありますが、今後は歴史小説など読みたいと思っています。

(*当稿は1月の研究生時に投稿されたものです)

「おばあちゃんのひな祭り」

国際文化学科3年 岡田 久美子

私は春休みを利用して3月27日から28日にかけて、三重県松阪市と伊勢市方面に旅行してきました。

旅行の目的のひとつは、松阪市から車で40分のところにある松阪市宇気郷（うきさと）地区を訪ねたかったからです。

宇気郷地区は高齢化率70%を超える山里で、昔は林業が盛んだったらしいのですが今は衰退していて、都会からUターンしてきた人たちが年金暮らしをしている、というのが実情のようです。

あれは2年前のことです。NHKにつぼん紀行のドキュメンタリー番組で「おばあちゃんのひな祭り」というのを偶然見たのです。本来ひな祭りは、女の子の健やかな成長を願う行事です。しかし高齢化と過疎化が進む宇気郷地区に住んでいるのは、お年寄りの女性ばかり。しかも貧しかった幼少期にひな人形を買ってもらえず、おばあちゃんになってはじめて、自分のために人形を飾る。そのお人形さんも寄付されたものばかりなんだそうです。なんだか身につまされるお話で、これはぜひ見にゆきたいと思った次第です。



▲子どもの頃の娘さんの写真がそえてある雛飾り

旧暦の3月下旬から4月上旬にかけて1週

間だけお家に飾り、訪れた一般の方にひな飾りをお見せするのです。日本の各地で家にある古くから伝わるひな人形を公開している所はありますが、私は地区のおばあちゃんたちが中心になって、地区ぐるみで行っている行事に心を打たれました。



▲上方で人気の高い屋根付き御殿飾り雛

今年で10周年を迎えた宇気郷地区界限には、指定された27軒の古民家・市民センター・公民館でお雛様を見ることができます。時間の都合ですべてのお雛様を見学することはできませんでしたが、見るからに古そうな雛段飾りを見せていただくと、お雛様が見つめ続けた女の子たちの歴史や家族の人たちの歴史が眼前に立ち上ってくるようで、思わず居ずまいを正したくなりました。



お雛様は古くなると方々が劣化して傷みが早まるので手入れや保存が難しく、所有者自身の高齢化と相まって維持してゆくのが大変だと住民のかたがたが口をそろえておっしゃっていました。



▲88歳のおばあちゃんが使っている現役のミシン

今年のひな祭りのポスターに登場しているお雛様は、最近あまり見かけない屋根付きの御殿飾り雛でした。この形式は明治・大正時代を通じて京阪神間で人気があったそうで、この地区でミシン工房を開いていらっしゃるお家に保存されています。上段に五人飾り（お内裏様とお雛様とそれに従う三人官女）となっていて、御殿の造りがとても精巧で、これは使わない時の保存が大変だろうな、と思いました。



▲「ぜんざいあります」の張り紙

3月下旬の里山は日陰に入るとまだまだ肌寒かったのですが、公民館で大ぶりの竹を切って製作した器に盛った温かいぜんざいが振る舞われ、美味しさとともに地区の人たちのご接待のお心持が優しく伝わってきて、心まで温かくなりました。



▲竹の器に温かなぜんざいのおもてなし

お話を伺うと、都会へ出ていった息子や娘たちはもう戻って来ないだろうし、残った者たちが高齢化がこれ以上進展すると、ひな祭りの行事をいつまで続けられるか心許ない、とおっしゃっていましたが、古来から伝わる日本ならではの女の子のお祭りをいついつまでも傳承してゆくにはどうしたらいいのだろうと考えつつ家路につきました。



▲河津桜が開花

文学歴史学科9期生 同期会

研究生 木下 俊造

「わだばゴッホになる」版画家として成功し、世界のムナカタと呼ばれた棟方志功展覧会を12月9日にあべのハルカス美術館で見学後、がんこあべのルシラス店ランチ会を実施しました。

展覧会ではスケールの大きな版画と生命力にあふれた絵画が印象に残っていますし、志功の晩年、身体の不自由さを感じさせない、ほとぼる情熱は今でも印象的です。



ランチ会はやや少なめの13名の参加にもかかわらず、久しぶりに再会できた方を中心に、各テーブルいろんな話で盛り上がり、あっという間にお開きの時間となりましたが、続いて第2ラウンドに行かれた方もおられたようです。

卒業後5年目を迎えた9期生の同期会も、今回は第16号発刊の6月に、見学&ランチ会の実施を予定していますが、なによりも皆様方がお元気で再会でき、多数の方が参加していただけることを念じています。



読者の広場

楽しい話、いかがですか？

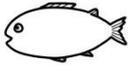
「18歳と81歳の違い」

- ◇人生につまずくのが 18 歳
石につまずくのが 81 歳
 - ◇心がもろいのが 18 歳
骨がもろいのが 81 歳
 - ◇恋におぼれるのが 18 歳
風呂でおぼれるのが 81 歳
 - ◇道路を暴走するのが 18 歳
道路を逆走するのが 81 歳
 - ◇知らないことが多いのが 18 歳
忘れたことが多いのが 81 歳
 - ◇飴をかみ砕けるのが 18 歳
飴をかんだら入れ歯が砕けるのが 81 歳
 - ◇思い出を作るのが 18 歳
思い出を思い出せないのが 81 歳
 - ◇人の言うことを聞かないのが 18 歳
人の言うことが聞こえないのが 81 歳
 - ◇人生の甘辛が分からないのが 18 歳
食事の甘辛が分からないのが 81 歳
 - ◇ゴルフで前の組に打ち込むのが 18 歳
後の組から打ち込まれるのが 81 歳
 - ◇遊び過ぎて眠れないのが 18 歳
昼寝が過ぎて眠れないのが 81 歳
 - ◇金がないのが 18 歳
金はあっても使いみちがないのが 81 歳
 - ◇知識をたくさん吸収するのが 18 歳
薬をたくさん吸収するのが 81 歳
 - ◇大学に入るのがだいたい 18 歳
施設に入るのがだいたい 81 歳
 - ◇学校で友達に会うのが 18 歳
病院で友達に出会うのが 81 歳
 - ◇異性が気になるのが 18 歳
トイレが気になるのが 81 歳
 - ◇女房を探し始めるのが 18 歳
女房に探され始めるのが 81 歳
- (「けやき便り」編集クラブ：出典は笑点より)

総合生涯学習センターからのお知らせ

□ 平成29年度 総合生涯学習センター

今年度も次のメンバーでよろしくお願ひいたします。

氏名	趣味・特技等
木村 保司 (所長) きむら やすし	一人山にこもって清流釣り、また近くの温泉に行くこと 
大野 明子 (課長) おおの めいこ	 楽しく走り、踊ること
占野 薫 しめの かおる	音楽鑑賞 (娘たちの演奏会の追っかけ!?) 
増田 奈美 ますだ なみ	 よその家の犬の観察
與山 里香 よやま りか	青空の下、海や山の自然を感じる 

□ これからの予定 (ご案内)

1 ミーティング開催

日時：6月28日 (水)
4時限目 14:40~16:10
場所：231教室 (予定)

✦シニア専修コース受講生のより一層の学園生活の活性化を図り、充実した活動を支援することを目的に、これまでの「委員会」スタイルを変更。各クラブ・同好会代表の方の他、各学年、研究生から興味ご関心のある方ならどなたでも、ご参加ください。

2 夏季特別講座 (予告)

7月に開催予定です。詳細は後日、センター前掲示板、チラシ、HP等でご案内します。

昨年度前期は「シニアのためのピラティス」、後期は「尼崎初の運動をしよう!」と「暮らしに役立つお金の話」の講座を実施いたしました。

今年度は!? お楽しみに!



3 学園祭「けやき祭」に参加しませんか

開催日：10月21日 (土)、22日 (日)
✦今年度も「総合生涯学習センター」も参加予定。楽しいイベントを検討中!

4 公開講座「人間を考える」講師募集

シニア専修コース受講生に講座講師を担当いただく取り組みは、今年度で4回目になります。自薦他薦問いません。センターまで!

公開講座「人間を考える」

テーマ：楽しく生きる力
講座日：平成30年1月20日 (土)
2時限目 10:40~12:10
シニア受講生2名 担当時間・40分

~いつでもお気軽に、総合生涯学習

センターまでお越しください~

情報誌への投稿のお願い

当編集クラブでは新入生の皆さんからの投稿や情報提供をお待ちしています。内容については、たとえば次のような事柄で、写真やイラストなどを含めて頂いても結構です。

- ◆各クラスや学科コース便り
特別授業や行事、各種の活動報告や紹介
- ◆クラブ便り
クラブ紹介、クラブ行事や活動の報告
- ◆自由投稿
旅行記、ボランティア活動、趣味、個人の研究テーマなどの紹介
- ◆読者の広場

「読者の広場」は、皆様方のいろんな作品などを掲載させていただくコーナーです。たとえば俳句・短歌・川柳・絵・書・イラスト・クラブ新設呼びかけなど

投稿は2号館1階の総合生涯学習センターにある研究生ファイル横の「けやき便り」編集クラブファイルに入れていただくか、下段の連絡先のメールアドレスに文書を添付して送付ください。

尚、投稿された原稿は、誌面の都合により変更・修正する場合や編集会議の審議により掲載できない場合（宗教・政治に関するものや公序良俗に反するものなど）がありますのでご了承ください。

◎「園田シニア人間探究」への応募について

園田シニアの学生で興味深い人生経験をされた方や面白い趣味などに取り組まれている方をシリーズで紹介しています。この企画のインタビューに応じていただける方を募集しています。自薦他薦を問わず、多くの方のご紹介をお願いいたします。

<連絡先>

国際文化学科3年 櫻井 秀也

携帯：090-6904-9738

Eメール：hideyasakurai94@gmail.com

編集後記



★「けやき便り」の発刊をいつも心待ちしていました。恋い焦がれている？（これは嘘ですが）早く読みたくて待ちどうしくて眠れないほどでした。そんな状態が長年続いていたのですが、今年の冬です。風呂に入っている時、突然閃いたのです「そうだ、編集委員に入ればもっと早く読める！」。大発見です！ おもわず風呂から裸で飛び出し、家の中を駆け回ったのでした。という理由（わけ）で編集クラブに参加させてもらいました。（K. S）

★シニア専修コース生ライフも2年目となり、何かクラブ活動をとと思い、以前から気になっていた「けやき便り」編集クラブへ入部することにしました。分からないことがまだたくさんありますが、諸先輩方のご指導のもと、いろいろな情報を皆さまにお伝えできればと思っています。どうぞよろしくお祈いします。（J. T）

★「けやき便り」は今回で第16号、卒業生と新入生の皆さまの声をお聞きし、また歓迎会や懇親会の記事が多く組まれるなど、新学期らしい春号となりました。

今号で掲載しました「みんなの尼崎大学」を取材して、「みんなが生徒、みんなが先生、どこでも教室」というモットーを掲げた尼崎市の取り組みに、新しい地域社会のありかたを見せてもらった気がしました。

「けやき便り」は、どなたでも気軽に投稿していただける皆さまの「便り」です。豊富な仕事や人生経験をベースとして、新たな学びの場に集う皆さまの日々の思い、ちょっとした体験、周りの人々とのつながりの場面など、ありのままを、是非お聞かせください。皆さまの声を楽しくお届けすることができたらと願っています。（H. S）